

平成 29 (2017) 年度

# 講義概要

東北大学文学部  
東北大学大学院文学研究科

# 目 次

## 文学部

学部開講科目一覧 .....	2
<b>人文社会科学</b>	
国 文 学 .....	30
日 本 思 想 史 .....	38
日 本 史 .....	43
考 古 学 .....	59
中 国 文 学 .....	67
中 国 思 想 .....	75
東 洋 史 .....	81
イ ン ド 学 仏 教 史 .....	89
英 文 学 .....	97
英 語 学 .....	104
ド イ ツ 文 学 .....	110
フ ラ ン ス 文 学 .....	120
ヨ ー ロ ッ パ 史 .....	128
言 語 学 .....	137
国 語 学 .....	147
日 本 語 教 育 学 .....	155
哲 学 .....	166
倫 理 学 .....	181
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 .....	189
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 .....	196
社 会 学 .....	205
行 動 科 学 .....	213
心 理 学 .....	224
文 化 人 類 学 .....	234
宗 教 学 .....	242
専修以外の基礎科目一覧 .....	252
専修以外の発展科目一覧 .....	284
教 職 科 目 一 覧 .....	296
海 外 研 修 科 目 一 覧 .....	302
職 業 関 連 科 目 一 覧 .....	305

## 文学研究科

大学院開講科目一覧	308
-----------	-----

### 文化科学専攻

国文学	338
日本思想史	344
中国語学中国文学	347
中国思想中国哲学	353
インド学仏教史	358
英文学	363
英語学	368
ドイツ文学	372
フランス語学フランス文学	379
哲学	386
倫理学	396

### 言語科学専攻

言語学	401
国語学	408
日本語教育学	415

### 歴史科学専攻

日本史	422
考古学	437
文化財科学	442
東洋史	444
ヨーロッパ史	450
東洋・日本美術史	458
美学・西洋美術史	461
比較文化史学	467

### 人間科学専攻

社会学	469
行動科学	478
心理学	486
文化人類学	494
宗教学	499

大学院専攻共通科目一覧	505
-------------	-----

歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画授業科目一覧	520
----------------------------	-----

平成29年度 文学部学年暦

授業日程等	主な行事及び書類提出期日等	備 考			
<b>第1学期 授業期間</b> 自4月7日(金) 至7月24日(月)  <b>第1学期 補講期間</b> 自7月27日(木) 至8月2日(水) ※7月25日～26日 は休業日  <b>夏季休業期間</b> 自8月3日(木) 至9月29日(金)	2年次ガイダンス	4月4日(火)午前	マルチメディア棟206  マルチメディア棟206 文学部研究棟 日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡 協力校(中・高)及び 出身校(中・高)  授業を行う 9月卒業予定者 2年次  9月卒業予定者 日程は掲示等で連絡		
	入学式	4月5日(水)午前			
	文学部新入生オリエンテーション	4月6日(木)午後			
	WEB履修登録期間				
	定期健康診断	5月中旬			
	教育実習(前期)(2又は3週間)	5月中旬～7月上旬			
	介護等体験参加申込書提出期限	6月中旬			
	創立記念日	6月22日(木)			
	卒業論文・卒業研究題目届提出期限	6月26日(月)			
	転専修出願期間	7月3日(月)～7日(金)			
	専修志望予備調査	7月下旬(人文社会総論の授業中に行う)			
	オープンキャンパス	7月25日(火)、26日(水)			
	卒業論文・卒業研究提出期限	7月31日(月)			
	介護等体験事前指導	9月上旬			
	学位記授与式	9月25日(月)			
	<b>第2学期 授業期間</b> 自10月2日(月) 至1月29日(月)  <b>冬季休業期間</b> 自12月25日(月) 至1月3日(水)  <b>第2学期 補講期間</b> 自2月5日(月) 至2月9日(金)  <b>論文口頭 試問期間</b> 自2月5日(月) 至2月14日(水)	卒業論文・卒業研究題目届提出期限		10月6日(金)	次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡 協力校(中) 次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡  日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡  3月卒業予定者
		教育実習参加申込書提出期限		10月上旬	
WEB履修登録期間					
教育実習(後期)(3週間)		10月中旬～11月中旬			
教育実習事前指導		11月中旬			
学士編入学願書受付		10月23日(月)～27日(金)			
専修決定オリエンテーション		10月25日(水)～26日(木)			
大学祭		11月3日(金)～5日(日)			
平成30年度A O II期第1次選考		11月4日(土)(予定)			
学士編入学試験		11月16日(木)			
平成30年度A O II期第2次選考		11月18日(土)(予定)			
転専修出願期間		12月中旬			
教育職員免許状出願期限		12月下旬			
卒業論文・卒業研究提出期限		1月5日(金)			
専修志望本調査		1月9日(火)～12日(金)			
転学部出願期間		1月9日(火)～15日(月)			
転学部面接試験等		2月7日(水)			
研究生・科目等履修生入学願書受付	2月9日(金)～16日(金)				
平成30年度個別学力試験(前期日程)	2月25日(日)～26日(月)				
卒業生決定の掲示	3月上旬				
学位記授与式	3月27日(火)				

(注1) 定期試験の期間は特に設けず、授業担当教員の判断により当該セメスター(学年)内に随時実施する。

(注2) 6月22日(木)は創立記念日であるが授業を行う。

## 日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
日本語教育学概論	日本語と日本語教育	2	才	田  いずみ	3	火	3	155
日本語教育学概論	日本語教育の基礎	2	才	田  いずみ	4	火	3	155
現代日本論概論	現代日本における家族	2	田	中  重  人	3	火	2	156
現代日本論概論	現代日本における職業	2	田	中  重  人	4	火	2	156
日本語教育学基礎講読	外国語学習と習得	2	才	田  いずみ	3	月	5	157
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小	河  原  義  朗	4	月	5	157
現代日本論基礎講読	論文作成の基礎	2	田	中  重  人	3	金	2	158
現代日本論基礎講読	研究法入門	2	田	中  重  人	4	金	2	158
日本語教育学各論	日本語教育方法論	2	㊦	横  溝  紳一郎	集  中 (5)			159
日本語教育学各論	海外の日本語教育	2	㊦	長  田  佳奈子	5	火	4	159
日本語教育学各論	学習者と社会	2	島	崎  薫	6	金	3	160
日本語教育学講読	中間言語語用論	2	才	田  いずみ	6	月	2	160
日本語教育学演習	読解の授業と教材	2	才	田  いずみ	5	火	2	161
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラムの 評価	2	小	河  原  義  朗	5	金	3	161
日本語教育学演習	学習者の音声と教育	2	小	河  原  義  朗	6	火	4	162
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	小	河  原  義  朗	5	水	3・4	162
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	小	河  原  義  朗	6	水	3・4	163
現代日本論講読	現代日本論論文講読	2	田	中  重  人	5	金	4	163
現代日本論演習	質問紙調査の基礎	2	田	中  重  人	5	水	2	164
現代日本論演習	統計分析の基礎	2	田	中  重  人	5	木	2	164
現代日本論演習	調査的面接の基礎	2	田	中  重  人	6	水	2	165
現代日本論演習	実践的統計分析法	2	田	中  重  人	6	木	2	165

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 概 論 Teaching of Japanese Language (General Lecture)	2	才 田 いずみ	3	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN205J																				
◆ 授業題目	日本語と日本語教育 (Introduction to the Teaching of Japanese as a Foreign Language)																				
◆ 目的・概要	1) 日本語の音声・文法・文字等の言語要素について、その構造や体系を知る。 2) 日本語を学ぶ人々に対して、上記の情報をどう提示するかを考える。 3) 日本語教育の置かれた社会的状況についても学ぶ。																				
◆ 到達目標	日本語のしくみや特徴を再認識すると同時に日本語教育への理解を深める。 自らの日本語使用や日本語能力を振り返る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育</td> <td>8. 用言の活用と学習者の習得 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語の音声 (1)</td> <td>9. 用言の活用と学習者の習得 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 日本語の音声 (2)</td> <td>10. 用言の活用と学習者の習得 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 学習者の音声 (1)</td> <td>11. 初級の文型 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 学習者の音声 (2)</td> <td>12. 初級の文型 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語の文字と表記 (1)</td> <td>13. 学ばれにくい日本語の構文 (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 日本語の文字と表記 (2)</td> <td>14. 学ばれにくい日本語の構文 (2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>					1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育	8. 用言の活用と学習者の習得 (1)	2. 日本語の音声 (1)	9. 用言の活用と学習者の習得 (2)	3. 日本語の音声 (2)	10. 用言の活用と学習者の習得 (3)	4. 学習者の音声 (1)	11. 初級の文型 (1)	5. 学習者の音声 (2)	12. 初級の文型 (2)	6. 日本語の文字と表記 (1)	13. 学ばれにくい日本語の構文 (1)	7. 日本語の文字と表記 (2)	14. 学ばれにくい日本語の構文 (2)		15. まとめ
1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育	8. 用言の活用と学習者の習得 (1)																				
2. 日本語の音声 (1)	9. 用言の活用と学習者の習得 (2)																				
3. 日本語の音声 (2)	10. 用言の活用と学習者の習得 (3)																				
4. 学習者の音声 (1)	11. 初級の文型 (1)																				
5. 学習者の音声 (2)	12. 初級の文型 (2)																				
6. 日本語の文字と表記 (1)	13. 学ばれにくい日本語の構文 (1)																				
7. 日本語の文字と表記 (2)	14. 学ばれにくい日本語の構文 (2)																				
	15. まとめ																				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [70%]・平常点 (発言・クラス参加度・授業中の課題) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：小林ミナ (2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』アルク。 佐藤武義編著 (1996)『展望 現代の日本語』白帝社、ほか。																				
◇ 授業時間外学習	配布したプリントを見直すなどの復習をする。 授業で扱った問題に関して、周囲の日本人の日本語使用を観察する。参考書を読む。																				
その他：3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 概 論 Teaching of Japanese Language (General Lecture)	2	才 田 いずみ	4	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN205J																				
◆ 授業題目	日本語教育の基礎 (Basics in Teaching of Japanese as a Foreign Language)																				
◆ 目的・概要	1) 機能 (function) や概念 (notion) をはじめ、シラバスデザインに関わる基本要素について学ぶ。 2) 主要な外国語教授法について知る。 3) 学習者の日本語や授業のあり方など、日本語コースをめぐる諸要素の評価について知る。 4) 設定された課題について、グループで授業活動を組み立て、短い模擬授業を行う。																				
◆ 到達目標	日本語教育における学習と教育に関して、基礎的な知識を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の進め方 文法項目と機能</td> <td>8. 特色ある教授法</td> </tr> <tr> <td>2. カリキュラムとシラバス</td> <td>9. 模擬授業の組み立て</td> </tr> <tr> <td>3. シラバスデザイン</td> <td>10. 模擬授業の実践 1</td> </tr> <tr> <td>4. コースデザインの基本</td> <td>11. 模擬授業の実践 2</td> </tr> <tr> <td>5. 教授法の変遷とその背景</td> <td>12. 模擬授業の実践 3</td> </tr> <tr> <td>6. 教授法と関連する理論</td> <td>13. 学習者へのフィードバック</td> </tr> <tr> <td>7. 教授法と教室活動</td> <td>14. 教師の役割とコース評価</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> </table>					1. 授業の進め方 文法項目と機能	8. 特色ある教授法	2. カリキュラムとシラバス	9. 模擬授業の組み立て	3. シラバスデザイン	10. 模擬授業の実践 1	4. コースデザインの基本	11. 模擬授業の実践 2	5. 教授法の変遷とその背景	12. 模擬授業の実践 3	6. 教授法と関連する理論	13. 学習者へのフィードバック	7. 教授法と教室活動	14. 教師の役割とコース評価		15. 全体のまとめ
1. 授業の進め方 文法項目と機能	8. 特色ある教授法																				
2. カリキュラムとシラバス	9. 模擬授業の組み立て																				
3. シラバスデザイン	10. 模擬授業の実践 1																				
4. コースデザインの基本	11. 模擬授業の実践 2																				
5. 教授法の変遷とその背景	12. 模擬授業の実践 3																				
6. 教授法と関連する理論	13. 学習者へのフィードバック																				
7. 教授法と教室活動	14. 教師の役割とコース評価																				
	15. 全体のまとめ																				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [40%]・レポート [30%]・平常点 (発言およびクラス参加度、授業課題) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：小林ミナ (2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』アルク。 D.A. ウィルキンズ (1984)『ノーショナルシラバス』桐原書店/オックスフォード。 川口義一・横溝紳一郎 (2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に配布したプリントを復習する。参考書を読む。 模擬授業の実施については、グループメンバーと相談して案を練り、授業に必要なものを用意する。																				
その他：原則として3セメスターの日本語教育学概論「日本語と日本語教育」を受講済みであること。 3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 概 論 Study of Contemporary Japan (General Lecture)	2	准教授 田 中 重 人	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN206J																				
◆ 授業題目	現代日本における家族 (Family in Japan)																				
◆ 目的・概要	「家族」をめぐる問題は、さまざまな学問領域で研究対象となっています。この授業では、社会学を中心に、法学・経済学・人口学などにおける家族研究の成果を概観したうえで、現代日本社会における家族問題について考えます。トピックとしては、親族関係の分析、家族の形態と制度、結婚と離婚、出生と育児、ライフコースからみた家族、人口変動と家族などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課したり、各自の役割分担にしたがって調べたことを互いに教えあう活動をすることもあります。																				
◆ 到達目標	(1)家族研究の基礎的な概念と理論を理解する； (2)実証的データに基づいて現代日本における家族の現状を把握する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>2. 親族と家族</td> <td>10. ライフサイクルの変化</td> </tr> <tr> <td>3. 家族の法：報告と討論 (1)</td> <td>11. 家族変動</td> </tr> <tr> <td>4. 家族の法：報告と討論 (2)</td> <td>12. 家族の経済学 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 家族の法：まとめ</td> <td>13. 家族の経済学 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 法律情報の調べかた</td> <td>14. 復習と進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>7. 人口学の考えかた</td> <td>15. 全体のまとめと講評</td> </tr> <tr> <td>8. 結婚と出生</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 進捗確認課題	2. 親族と家族	10. ライフサイクルの変化	3. 家族の法：報告と討論 (1)	11. 家族変動	4. 家族の法：報告と討論 (2)	12. 家族の経済学 (1)	5. 家族の法：まとめ	13. 家族の経済学 (2)	6. 法律情報の調べかた	14. 復習と進捗確認課題	7. 人口学の考えかた	15. 全体のまとめと講評	8. 結婚と出生	
1. イントロダクション	9. 進捗確認課題																				
2. 親族と家族	10. ライフサイクルの変化																				
3. 家族の法：報告と討論 (1)	11. 家族変動																				
4. 家族の法：報告と討論 (2)	12. 家族の経済学 (1)																				
5. 家族の法：まとめ	13. 家族の経済学 (2)																				
6. 法律情報の調べかた	14. 復習と進捗確認課題																				
7. 人口学の考えかた	15. 全体のまとめと講評																				
8. 結婚と出生																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題によって評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】神原文子 (ほか編) (2016)『よくわかる現代家族』(第2版) ミネルヴァ書房。 【参考書】利谷信義 (2010)『家族の法』(第3版) 有斐閣。 藤見純子・西野理子 (2009)『現代日本人の家族』有斐閣。 京極高宣・高橋重郷 (2008)『日本の人口減少社会を読み解く』中央法規出版。 湯沢雅彦・宮本みち子 (2008)『データで読む家族問題』(新版) 日本放送出版協会。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題・宿題																				
その他：授業中の課題遂行のため、携帯用通信機器や電子辞書の持ち込みを推奨する。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 概 論 Study of Contemporary Japan (General Lecture)	2	准教授 田 中 重 人	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN206J																				
◆ 授業題目	現代日本における職業 (Work in Japan)																				
◆ 目的・概要	職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。																				
◆ 到達目標	現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 社会階層と職業</td> </tr> <tr> <td>2. 労働統計 (1) さまざまな働きかた</td> <td>10. 社会移動と職業・教育</td> </tr> <tr> <td>3. 労働統計 (2) 賃金と労働時間</td> <td>11. ジェンダーと労働</td> </tr> <tr> <td>4. 雇用をめぐる法と政策 (1)</td> <td>12. 社会的不平等と職業</td> </tr> <tr> <td>5. 雇用をめぐる法と政策 (2)</td> <td>13. 課題再提出と進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>6. 外部労働市場と内部労働市場</td> <td>14. 課題返却と講評</td> </tr> <tr> <td>7. 企業の人事管理と労働者のキャリア</td> <td>15. 授業全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 社会階層と職業	2. 労働統計 (1) さまざまな働きかた	10. 社会移動と職業・教育	3. 労働統計 (2) 賃金と労働時間	11. ジェンダーと労働	4. 雇用をめぐる法と政策 (1)	12. 社会的不平等と職業	5. 雇用をめぐる法と政策 (2)	13. 課題再提出と進捗確認課題	6. 外部労働市場と内部労働市場	14. 課題返却と講評	7. 企業の人事管理と労働者のキャリア	15. 授業全体のまとめ	8. 前回までの復習と進捗確認課題	
1. イントロダクション	9. 社会階層と職業																				
2. 労働統計 (1) さまざまな働きかた	10. 社会移動と職業・教育																				
3. 労働統計 (2) 賃金と労働時間	11. ジェンダーと労働																				
4. 雇用をめぐる法と政策 (1)	12. 社会的不平等と職業																				
5. 雇用をめぐる法と政策 (2)	13. 課題再提出と進捗確認課題																				
6. 外部労働市場と内部労働市場	14. 課題返却と講評																				
7. 企業の人事管理と労働者のキャリア	15. 授業全体のまとめ																				
8. 前回までの復習と進捗確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題によって評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【参考書】厚生労働省 (2015)『知って役立つ労働法』。 労働政策研究・研修機構 (2010)「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597。 宮本太郎 (2009)『生活保障』岩波書店。 犬塚先 (編) (2003)『新しい産業社会学』(改訂版) 有斐閣。 嵩さやか・田中重人 (編) (2007)『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題・宿題																				
その他：受講者は、3セメスタ開講の現代日本論概論「現代日本における家族」を履修しているか、それと同等の知識を習得済みであることが望ましい。授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読 Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)	2	教授 才 田 いずみ	3	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN213J				
◆ 授業題目	外国語学習と習得 (Foreign Language Learning and its Acquisition)				
◆ 目的・概要	<p>1) 応用言語学の分野の基本的な英文文献を読み、言語習得・外国語習得についての基本的な考え方や重要な研究成果を知る。</p> <p>2) 外国語を学ぶことのメカニズムやそれに関係する諸要素についての知識を得るとともに、よりよい外国語学習のあり方についても考える力をつける。授業を進める方法については、初回授業で受講者と相談して決定するが、担当教員の提案は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書として提示した英文文献を1週または2週に1章のペースで読み進める。</li> <li>・毎回各章の内容を問うタスクシートを与えるので、受講者はそれに従って各自予習をする。</li> <li>・授業では小グループで予習結果を確認しつつ、教科書に掲載されている問題について考えたり、自分たちの抱いた疑問点について考えたりする。さらに、自らの外国語学習経験などと記載内容を照らし合わせながら、内容についてディスカッションを行い、理解を深める。</li> <li>・グループで話し合っても解決できない点があれば、教員に尋ねたりクラス全体で考えたりする。</li> </ul>				
◆ 到達目標	<p>1) 言語習得や言語教育の分野の研究に必要な概念や用語に親しむ。</p> <p>2) 第一言語習得と第二言語習得の共通点、相違点を知る。</p> <p>3) 学習者にとって外国語を学ぶという行為がどのようなものであるのかを知る。</p> <p>4) 外国語学習の授業のあり方について自分の考えを明確化する。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 授業のガイダンス授業の進め方の決定、次週以降の担当の決定。</p> <p>2. Chapter 1 の内容について話し合う。予習でよく理解できなかった点については相互に質問し合って確認する (以下、方法は同じ)。</p> <p>3. Chapter 2</p> <p>4. Chapter 3 の前半</p> <p>5. Chapter 3 の後半</p> <p>6. Chapter 4 の前半</p> <p>7. Chapter 4 の後半</p> <p>8. Chapter 5 の1回め</p> <p>9. Chapter 5 の2回め</p> <p>10. Chapter 5 の3回め</p> <p>11. Chapter 6</p> <p>12. Chapter 7 の前半</p> <p>13. Chapter 7 の後半</p> <p>14. Chapter 8</p> <p>15. Conclusion とまとめ</p> <p>全体を読んだ段階で、第二言語習得について理解したこと、疑問に思ったことなどについても話し合う。</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・出席 [10%]・「授業課題およびクラス貢献度」[40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：Brown, Steven and Larson-Hall, Jenifer (2012) <i>Second Language Acquisition Myths: Applying second language research to classroom teaching</i> . Ann Arbor: The University of Michigan Press.				
◇ 授業時間外学習	毎回配布するタスクシートを用いながら、定められた範囲を予習する。授業進行の担当者となったときには、テキストの内容で皆がつかまざりそうな箇所について、関連文献を調べて説明できるようにしておく。				
その他：3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読 Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)	2	准教授 小 河 原 義 朗	4	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN213J				
◆ 授業題目	日本語教育文法 (Pedagogical Grammar in Japanese)				
◆ 目的・概要	日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、毎回提示されるトピックに関する課題に答えるために、資料等を使って次のような活動を通して進める。(1)課題に対する考えをまとめる。(2)個別、または協働して担当資料を理解し、課題を解く。(3)担当資料、課題に対する解を共有、発表し合い、全体で議論する。(4)課題に対する解について改めてまとめる。				
◆ 到達目標	<p>(1)日本語教育ための文法の基礎を理解し、説明できる。</p> <p>(2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。</p> <p>(3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. イントロダクション</p> <p>2. 文法を教える</p> <p>3. 品詞 (1)</p> <p>4. 品詞 (2)</p> <p>5. 文の構造</p> <p>6. 格助詞</p> <p>7. 主題化</p> <p>8. 自動詞と他動詞</p> <p>9. ヴォイス</p> <p>10. テンス</p> <p>11. アスペクト</p> <p>12. ムード</p> <p>13. 複文</p> <p>14. 文章と談話</p> <p>15. まとめと期末テスト</p>				
◇ 成績評価の方法	期末テスト 30%・課題 40%・授業参加度 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定、または配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎回提示される課題に取り組むために個別、または協働して次回授業のための準備を行う。				
その他：3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					



授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 基 礎 講 読 Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)	2	准教授 田 中 重 人	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN214J																				
◆ 授業題目	論文作成の基礎 (Basics of Academic Writing)																				
◆ 目的・概要	大学での研究 (たとえば授業での課題、レポート、卒業論文など) で要求される文章は、高等学校までの「作文」とは本質的にちがいます。研究の文章には、(1)データに基づいた論理的な推論を中心とする、(2)論理構造に沿った章立てや段落分けが重要である、(3)誤解をまねかないよう正確に書かなければならない、(4)先人の業績と自分の意見とを区別しなければならない、(5)そのために文献参照の規則がこまかく定められている、といった特徴があります。この授業では、これらのルールを学ぶと同時に、実際に論文を執筆し、受講者相互の批評をとおして執筆のプロセスを習得します。																				
◆ 到達目標	大学での研究に必要な文章の書きかたを習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. データを簡潔に表現する; 中間レポート提出</td> </tr> <tr> <td>2. 論文の基本形</td> <td>10. 科学的文体</td> </tr> <tr> <td>3. パラグラフ</td> <td>11. 書誌情報の利用</td> </tr> <tr> <td>4. 文と文をつなぐ</td> <td>12. 中間レポートの返却と講評; 期末レポートについて面談</td> </tr> <tr> <td>5. 構文解析</td> <td>13. 文献参照の種類と方法</td> </tr> <tr> <td>6. 構想・立案・材料の準備</td> <td>14. 公表文書の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 草稿を読む</td> <td>15. 全体のまとめ; 期末レポート執筆に向けて討論</td> </tr> <tr> <td>8. 記号などの用法</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. データを簡潔に表現する; 中間レポート提出	2. 論文の基本形	10. 科学的文体	3. パラグラフ	11. 書誌情報の利用	4. 文と文をつなぐ	12. 中間レポートの返却と講評; 期末レポートについて面談	5. 構文解析	13. 文献参照の種類と方法	6. 構想・立案・材料の準備	14. 公表文書の倫理	7. 草稿を読む	15. 全体のまとめ; 期末レポート執筆に向けて討論	8. 記号などの用法	
1. イントロダクション	9. データを簡潔に表現する; 中間レポート提出																				
2. 論文の基本形	10. 科学的文体																				
3. パラグラフ	11. 書誌情報の利用																				
4. 文と文をつなぐ	12. 中間レポートの返却と講評; 期末レポートについて面談																				
5. 構文解析	13. 文献参照の種類と方法																				
6. 構想・立案・材料の準備	14. 公表文書の倫理																				
7. 草稿を読む	15. 全体のまとめ; 期末レポート執筆に向けて討論																				
8. 記号などの用法																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (40%)、中間レポート (20%)、期末レポート (40%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 木下是雄 (1981) 『理科系の作文技術』 中央公論社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成																				
その他: 日本語教育学研究室で卒業論文を執筆するためには、論文の書きかたを習得していることが必要条件になるので、同研究室所属の学部生は必ず受講すること。授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 基 礎 講 読 Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)	2	准教授 田 中 重 人	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN214J																				
◆ 授業題目	研究法入門 (Academic Study Skills)																				
◆ 目的・概要	「研究」とは、答えるに値する問いを見つけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。書籍・雑誌・マスメディアなどからの資料収集と読解、情報整理とアイデア創出、発表と討論の技術のほか、書店や図書館などの施設の利用方法も学びます。																				
◆ 到達目標	知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「研究」とは何か</td> <td>9. アイディアの創出</td> </tr> <tr> <td>2. 卒業論文・修士論文について発表</td> <td>10. アイディアの交換</td> </tr> <tr> <td>3. 図書館見学実習</td> <td>11. プロジェクトとしての研究</td> </tr> <tr> <td>4. 研究テーマについて面談</td> <td>12. 議論を組み立てる</td> </tr> <tr> <td>5. 本を読む (1): 速読</td> <td>13. 期末レポートについて面談</td> </tr> <tr> <td>6. 書店実習</td> <td>14. 発表会</td> </tr> <tr> <td>7. 本を読む (2): 批判と議論</td> <td>15. 口頭試問</td> </tr> <tr> <td>8. 本を読む (3): 精読</td> <td></td> </tr> </table>					1. 「研究」とは何か	9. アイディアの創出	2. 卒業論文・修士論文について発表	10. アイディアの交換	3. 図書館見学実習	11. プロジェクトとしての研究	4. 研究テーマについて面談	12. 議論を組み立てる	5. 本を読む (1): 速読	13. 期末レポートについて面談	6. 書店実習	14. 発表会	7. 本を読む (2): 批判と議論	15. 口頭試問	8. 本を読む (3): 精読	
1. 「研究」とは何か	9. アイディアの創出																				
2. 卒業論文・修士論文について発表	10. アイディアの交換																				
3. 図書館見学実習	11. プロジェクトとしての研究																				
4. 研究テーマについて面談	12. 議論を組み立てる																				
5. 本を読む (1): 速読	13. 期末レポートについて面談																				
6. 書店実習	14. 発表会																				
7. 本を読む (2): 批判と議論	15. 口頭試問																				
8. 本を読む (3): 精読																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問 (50%: 主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 (第2版) 慶應義塾大学出版会。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題のほか、各自のレポート作成のための研究活動をおこなう																				
その他: 受講人数や各種施設の利用期日などによって授業計画を変更する可能性があります。また、授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります。授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤 講師 横 溝 紳一郎	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN307J				
◆ 授業題目	日本語教育方法論 (Japanese Language Pedagogy)				
◆ 目的・概要	日本語教育の現場で生じる様々な出来事に適切に対処するために必要不可欠な技術・知識について、包括的に講義を行う。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語教師の役割が理解できる。</li> <li>2. テストと評価の大切さが理解できる。</li> <li>3. 教材と学習環境の大切さが理解できる。</li> <li>4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さが理解できる。</li> <li>5. 学習者との信頼関係づくりの大切さが理解できる。</li> <li>6. 教師としての自分の言動を振り返るポイントが理解できる。</li> <li>7. 自律的学習者の育成方法が理解できる。</li> <li>8. 学習支援者としての心構えが理解できる。</li> </ol>				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、教師の成長</li> <li>2. 教師の役割</li> <li>3. テストと評価 (1)</li> <li>4. テストと評価 (2)</li> <li>5. 教材と学習環境 (1)</li> <li>6. 教材と学習環境 (2)</li> <li>7. 多様な学習者の理解</li> <li>8. 多様な学習者への対応</li> <li>9. 学習者との信頼関係づくり (1)</li> <li>10. 学習者との信頼関係づくり (2)</li> <li>11. 教師の言動の振り返り (1)</li> <li>12. 教師の言動の振り返り (2)</li> <li>13. 教師の言動の振り返り (3)</li> <li>14. 自律的学習者の育成</li> <li>15. 学習支援者としての心構え、まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	出席を含む授業態度 (50%) と、期末レポート (50%) により評価する。欠席3回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2回で欠席1回とみなす。				
◇ 教科書・参考書	教科書：横溝紳一郎 (2011) 『クラスルーム運営』 くらしお出版 参考書：川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』 ひつじ書房				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で学んだ内容について、教科書に書かれている内容をしっかり復習し、理解を深め続けること。				
その他：	1. 出席と積極的な参加を重視します。(授業中の私語・スマホ使用は厳禁!) 2. これまでの学習者/教師としての体験を振り返りながら、授業に参加してください。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤 講師 長 田 佳奈子	5	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN307J				
◆ 授業題目	海外の日本語教育 (Japanese-Language Education Abroad)				
◆ 目的・概要	海外における日本語教育が広がる中、母語話者教師、非母語話者教師を問わず、日本語教師が果たすべき役割も多様化している。教師として日本語を教えるだけでなく、現地の教師育成支援、ネットワーク形成、アドボカシー等に貢献できるよう、海外の日本語教育を、さまざまな視点からとらえる。				
◆ 到達目標	海外における日本語教育の現状、課題を捉え、その対策が考えられる。海外で、現地の日本語教育関係者とともに、カリキュラムを考えたり、研修やイベントを実施したりするために必要な視点を得る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 海外で教える日本語教師に求められる要素</li> <li>3. 海外の日本語教育の現状 (アジア)</li> <li>4. 海外の日本語教育の現状 (アジア以外)</li> <li>5. 海外の初・中等教育における日本語科目</li> <li>6. 海外の高等教育における日本語教育</li> <li>7. 海外の日本語予備教育</li> <li>8. 海外で求められるビジネス日本語</li> <li>9. 海外における日本語教師養成、教師育成</li> <li>10. 海外における母語話者教師と非母語話者教師の チーム・ティーチング</li> <li>11. 海外で現地日本語母語話者をゲストに呼んだ日本語授 業を実施する</li> <li>12. 海外で日本語学習者対象の日本語、日本文化イベント を企画、運営する</li> <li>13. 非母語話者教師対象のワークショップを企画、運営する</li> <li>14. 海外における日本語教師ネットワーク形成</li> <li>15. まとめ 海外における日本語教育の現状と課題</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	レポート 50%・授業課題 30%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 20%				
◇ 教科書・参考書	参考書：椎名和男編 (2006) 『海外で日本語を教える - ネイティブ日本語教師への期待 -』 凡人社				
◇ 授業時間外学習	参考書、配布資料を読む。与えられた課題を行う。				
その他：	特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。 各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤 講師 島 崎 薫	6	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN307J				
◆ 授業題目	学習者と社会 (Japanese language learners and society)				
◆ 目的・概要	日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。				
◆ 到達目標	(1)日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る (2)日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる (3)学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる (4)グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション、自己紹介 2. 理論的背景を学ぶ (社会文化アプローチ、状況論、リソースなど) 3. 教室の中に社会を持ち込む ① 4. 教室の中に社会を持ち込む ② 5. 教室と社会を繋げる ① 6. 教室と社会を繋げる ② 7. 社会を教室にする ① 8. 社会を教室にする ② 9. 社会を教室にする ③ 10. 日本語学習者の教室外での日本語使用を知る 11. 東北大学のサマープログラムの紹介/プログラムデザイン 12. グループでプログラムデザイン 13. デザインしたプログラムをグループごとに中間発表 14. 中間発表でのフィードバックを踏まえて最終発表に向けての準備 15. 受講生のデザインしたプログラム最終発表、まとめ				
◇ 成績評価の方法	参加態度 40%、プログラムデザイン (グループプロジェクト) 30%、最終レポート 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で適宜配布予定				
◇ 授業時間外学習	授業時間外でグループ活動をする必要があります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 講 読 Teaching of Japanese Language (Reading)	2	教授 才 田 いずみ	6	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN317J				
◆ 授業題目	中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics)				
◆ 目的・概要	中間言語語用論に関する文献の講読を通じて、語用論の基礎を学ぶ。日本語の文献を講読するが、必要に応じて英文文献も参照する。授業の進め方については、初回に受講者と相談して決定するが、教員の提案は以下のとおり。 ・ 3人程度の小グループを編成し、グループごとにローテーションで発表者 (レポーター) 役と指定討論者 (ディスカッサント) 役を務める。 ・ 指定討論者グループは、発表者グループとは独立に予習を行い、重要なポイントやわかりにくい点などについて、発表者に対して確認・質問をする。 ・ 発表者グループは、協力し合ってわかりやすいレジュメを作成し、それをを用いながら、授業を進める。質問等に答えるだけでなく、受講者に対して質問を発し、考えさせるなど、全員を授業に参加させる工夫ある授業進行が要求される。				
◆ 到達目標	語用論の基礎を学び、用語を理解する。学習者の目標言語の発達過程や母語との関係などについての知識を得る。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 第1章 3. 第2章 4. 第3章 (1) 5. 第3章 (2) 6. 第4章 (1) 7. 第4章 (2) 8. 第5章 (1) 9. 第5章 (2) 10. 第5章 (3) 11. 第6章 12. 第7章 (1) 13. 第7章 (2) 14. 第8章 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	期末レポート 40%、発表者役と授業進行とレジュメ作成 20%、指定討論者役 20%、その他の授業貢献 10%、出席 10%				
◇ 教科書・参考書	教科書：清水崇文 (2009) 『中間言語語用論概論：第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク。				
◇ 授業時間外学習	教科書を予習すること。読んでわからない点を整理し、わからないことについては、関連文献を調べたりすること。あるいは、授業で発表者グループに質問できるようにしておくこと。				
その他：	3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。 発表者役や指定討論者役を務めるときには、グループ内でよく協力して準備すること。 準備を欠席したり、当日の授業をメンバーに無断で欠席するなどの迷惑行為は慎むこと。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	教授 才 田 いずみ	5	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN318J				
◆ 授業題目	読解の授業と教材 (Activities and Materials for Reading Comprehension)				
◆ 目的・概要	読解という活動は、取り組んでいる学習者がどのように理解に達しているかが見えない活動である。通常、内容確認質問を行うことで理解の程度を知ろうとするわけだが、内容確認質問への答えからは何がわかるだろうか。教師は、授業の中で学習者に行わせる活動を通して何が把握でき、何が把握できないのかを意識して活動を展開する必要がある。この授業では、読みをめぐる教材とタスクデザインによって、学習者がどのようなことを考えたのか、あるいは考えているのかを、可視化するにはどうしたらよいか、受講者全員で考える。また、自分のアイデアを盛り込んだ読解教材あるいはタスクデザインの提案を行い、それぞれの提案について議論することによって、よりよい教材や授業デザインを志向する。				
◆ 到達目標	学習者が読むことに取り組みやすい教材デザインとはどのようなものかを考えることができるようになる。学習者の読みのプロセスが把握しやすくなる教材デザインや授業活動の展開方法について、さまざまなアイデアを出すことができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 市販教材の検討 (1)</li> <li>3. 改善策の検討と提案 (1)</li> <li>4. 改善策の検討と提案 (2)</li> <li>5. 市販教材の検討 (2)</li> <li>6. タスクの検討：その意味と期待される効果</li> <li>7. リソースの選定について</li> <li>8. 予習の与え方について</li> <li>9. フィードバックが組み込まれるタスクとは</li> <li>10. 発表と質疑 (1)</li> <li>11. 発表と質疑 (2)</li> <li>12. 発表と質疑 (3)</li> <li>13. 改善の提案 (1)</li> <li>14. 改善の提案 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	期末レポート30%、教材・タスクの提案20%、発表とその態度20%、質疑・コメント等による授業への貢献20%、出席10%				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。参考文献は適宜紹介する。 参考書：奥田純子監修、竹田悦子他編著 (2011)『読む力 中級』くろしお出版 縫部義憲編著 (2002)『多文化共生時代の日本語教育－日本語の効果的な教え方・学び方』歴々社ほか				
◇ 授業時間外学習	授業課題を行い、わかりやすい発表の準備をする。紹介された文献を読む。自分の読みの活動を観察し内省する。				
その他：授業では、積極的に発言し、他の受講者の思考に刺激を与える存在になること。3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	准教授 小 河 原 義 朗	5	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN318J				
◆ 授業題目	日本語コースカリキュラムの評価 (Japanese Language Course evaluation)				
◆ 目的・概要	日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか (目的)、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか (役割)、何を評価の対象にするのか (能力)、どのような種類があるのか (方法) について、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。				
◆ 到達目標	(1)言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。 (2)日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. プロジェクト型学習 (1)</li> <li>3. プロジェクト型学習 (2)</li> <li>4. テストによる評価 (1)</li> <li>5. テストによる評価 (2)</li> <li>6. テストによる評価 (3)</li> <li>7. 伝統的評価と代替的評価</li> <li>8. 教育アプローチの変化</li> <li>9. 学習目標の変化</li> <li>10. 評価の変化</li> <li>11. スタンダードの分析 (1)</li> <li>12. スタンダードの分析 (2)</li> <li>13. ルーブリック</li> <li>14. ポートフォリオ</li> <li>15. バックワード・デザインとまとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	最終レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定、または配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。				
その他：3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	准教授 小 河 原 義 朗	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN318J																				
◆ 授業題目	学習者の音声と教育 (Learners' Pronunciation and its Education)																				
◆ 目的・概要	日本語学習者はよりよい音声の実現に対して、高いニーズを持っている。この演習では、さまざまな母語を持つ学習者のいる教室を念頭に、有効な音声教育の方法について考えていく。 授業においては、具体的な指導法を考えて実践してみる活動や、市販の教材の利用法の検討、オリジナル教材の作成など、グループや個人単位での活動とその発表が盛り込まれる。 各受講者は積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。																				
◆ 到達目標	日本語学習者に対する音声教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 韻律 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 音声とコミュニケーション</td> <td>10. 教科書分析と模擬授業 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 音声言語と文字言語</td> <td>11. 教科書分析と模擬授業 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 学習者の音声</td> <td>12. 模擬授業の振り返り</td> </tr> <tr> <td>5. 子音・母音 (1)</td> <td>13. 音声教育と研究 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 子音・母音 (2)</td> <td>14. 音声教育と研究 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 特殊拍と音素</td> <td>15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 韻律 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 韻律 (2)	2. 音声とコミュニケーション	10. 教科書分析と模擬授業 (1)	3. 音声言語と文字言語	11. 教科書分析と模擬授業 (2)	4. 学習者の音声	12. 模擬授業の振り返り	5. 子音・母音 (1)	13. 音声教育と研究 (1)	6. 子音・母音 (2)	14. 音声教育と研究 (2)	7. 特殊拍と音素	15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ	8. 韻律 (1)	
1. イントロダクション	9. 韻律 (2)																				
2. 音声とコミュニケーション	10. 教科書分析と模擬授業 (1)																				
3. 音声言語と文字言語	11. 教科書分析と模擬授業 (2)																				
4. 学習者の音声	12. 模擬授業の振り返り																				
5. 子音・母音 (1)	13. 音声教育と研究 (1)																				
6. 子音・母音 (2)	14. 音声教育と研究 (2)																				
7. 特殊拍と音素	15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ																				
8. 韻律 (1)																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート 30%・授業課題 40%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 30%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：松崎寛・河野俊之 (1998)『よくわかる音声』アルク。 小河原義朗・河野俊之 (2009)『日本語教師のための音声教育を考える本』アルク、ほか																				
◇ 授業時間外学習	参考書を読む。与えられた課題を行う。																				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。																					
その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に際しては、他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが得られるよう、わかりやすい提示を心がけること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
日 本 語 教 育 学 実 習 Teaching of Japanese Language (Practice)	2	准教授 小 河 原 義 朗	5	水	3・4																								
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN319J																												
◆ 授業題目	日本語コース運営の基礎 (Designing a Japanese Language Course)																												
◆ 目的・概要	10月から運営する日本語コースを念頭におきながら、教科書分析および模擬授業とその検討を中心に、以下の内容を扱う。																												
	1 語学学習環境としての「教室」のあり方	2 学習支援者としての教師のあり方																											
	3 シラバス、到達目標設定、学習項目設定	4 授業見学の視点																											
	5 授業活動デザイン	6 学習者の日本語																											
◆ 到達目標	日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語初級用教科書の検討 1</td> <td>11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2</td> </tr> <tr> <td>3. マイクロティーチング 1</td> <td>12. 授業見学の視点</td> </tr> <tr> <td>日本語初級用教科書の検討 2</td> <td>シラバスデザイン案の作成</td> </tr> <tr> <td>4. マイクロティーチング 2</td> <td>13. 教師と学習者のあり方について</td> </tr> <tr> <td>授業活動デザインについて</td> <td>コース概要と学習者の募集役割分担</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語初級用教科書の検討 3</td> <td>14. オリエンテーションの実施プラン作成</td> </tr> <tr> <td>6. 模擬授業の実施</td> <td>ニーズ調査・プレイスメントテストの検討</td> </tr> <tr> <td>7. 模擬授業の振り返り</td> <td>15. まとめと6セメスターの日本語コース開講準備</td> </tr> <tr> <td>8. 日本語中級用教科書の検討 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 日本語中級用教科書の検討 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業活動のデザインの検討</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1	2. 日本語初級用教科書の検討 1	11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2	3. マイクロティーチング 1	12. 授業見学の視点	日本語初級用教科書の検討 2	シラバスデザイン案の作成	4. マイクロティーチング 2	13. 教師と学習者のあり方について	授業活動デザインについて	コース概要と学習者の募集役割分担	5. 日本語初級用教科書の検討 3	14. オリエンテーションの実施プラン作成	6. 模擬授業の実施	ニーズ調査・プレイスメントテストの検討	7. 模擬授業の振り返り	15. まとめと6セメスターの日本語コース開講準備	8. 日本語中級用教科書の検討 1		9. 日本語中級用教科書の検討 2		授業活動のデザインの検討	
1. イントロダクション	10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1																												
2. 日本語初級用教科書の検討 1	11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2																												
3. マイクロティーチング 1	12. 授業見学の視点																												
日本語初級用教科書の検討 2	シラバスデザイン案の作成																												
4. マイクロティーチング 2	13. 教師と学習者のあり方について																												
授業活動デザインについて	コース概要と学習者の募集役割分担																												
5. 日本語初級用教科書の検討 3	14. オリエンテーションの実施プラン作成																												
6. 模擬授業の実施	ニーズ調査・プレイスメントテストの検討																												
7. 模擬授業の振り返り	15. まとめと6セメスターの日本語コース開講準備																												
8. 日本語中級用教科書の検討 1																													
9. 日本語中級用教科書の検討 2																													
授業活動のデザインの検討																													
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「発表態度」「クラス貢献度」「ジャーナル」) [50%]																												
◇ 教科書・参考書	参考書：文化外国語専門学校編 (2000)『新文化初級日本語 I』凡人社。 筑波ランゲージグループ (1991)『Situational Functional Japanese』Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社。 川口義一・横溝紳一郎 (2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房、ほか。																												
◇ 授業時間外学習	日本語の教科書を種々閲読し、内容や使用方法について考える。マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。実施したマイクロティーチングや模擬授業について、問題点を洗い出し、改善策を考える。																												
日本語教育学概論、3セメスター開講の日本語教育学基礎講義を含む関係科目を10単位以上履修済みまたは履修中のこと。																													
その他：6セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。全回授業に出席し、積極的に参加すること。 時間外に、日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 実 習 Teaching of Japanese Language (Practice)	2	准教授 小河原 義 朗	6	水	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN319J				
◆ 授業題目	日本語コースの運営と改善 (Japanese Language Course: its Operation and Improvement)				
◆ 目的・概要	実際に運営する日本語コースについて、以下の課題に取り組み、授業活動のデザイン力と実践力を養う。教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。 3 自分の教授スタイルに気づく。 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。 5 授業分析の方法を知り、実践する。 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。 日本語コースを運営しながら、シラバスの改変、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション オリエンテーションの結果について 2. 日本語コース運営の方針について 授業担当について 授業報告と授業の予定1 3. 授業報告と授業の予定2 教室活動のデザインとバリエーション 4. 授業報告と授業の予定3 教室活動の評価：その視点 5. 授業報告と授業の予定4 教室活動の評価と改善1 6. 授業報告と授業の予定5 授業分析の方法1 7. 授業報告と授業の予定6 学習者の観察	8. 授業報告と授業の予定7 授業分析の結果教室活動の評価と改善2 9. 授業報告と授業の予定8 教師行動の分析：ティーチャートーク 10. 授業報告とまとめ コースの振り返りと評価 11. 教室活動のバリエーション シラバスの問題点 12. 授業分析の方法2：学習者の達成度の評価 13. 授業分析の方法3：教師行動の分析 14. 報告書の作成について 日本語教育学実習全体についての振り返り 15. まとめ			
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「コース運営」「授業報告」「クラス貢献度」「ジャーナル」「報告書作成」) [50%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：筑波ランゲージグループ (1991) 『Situational Functional Japanese』 凡人社。 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』 ひつじ書房、 ほか。				
◇ 授業時間外学習	授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。				
その他：5セメスターの日本語教育学実習を履修済みのこと。全回授業に出席し、積極的に参加すること。教壇実習は夜間に実施する予定。コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 論 講 読 Study of Contemporary Japan (Reading)	2	准教授 田 中 重 人	5	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN320J				
◆ 授業題目	現代日本論論文講読 (Reading Seminar in Contemporary Japanese Studies)				
◆ 目的・概要	研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1 論文を、(a)鍵概念の抽出 (scanning)、(b)構造の抽出 (skimming)、(c)図表の解説、(d)ロジックの抽出、の4人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。 (1)論文の探しかたと読みかたを理解する； (2)プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 論文をさがす (1)：日本語文献 3. 論文をさがす (2)：英語文献 4. 論文の読みかた (1)：鍵概念と構造 5. 論文の読みかた (2)：図表とロジック 6. プレゼンテーション資料の作成 7. プレゼンテーションの準備 8. 発表と質疑	9. プレゼンテーション (1) 10. プレゼンテーション (2) 11. 録画視聴と振り返り (1) 12. プレゼンテーション (3) 13. プレゼンテーション (4) 14. 録画視聴と振り返り (2) 15. 全体のまとめと講評			
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (30%)、担当部分のプレゼンテーション (40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答 (30%) を合計して評価する。				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。 【参考書】 諏訪邦夫 (1995) 『発表の技法』 講談社。				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと。				
その他：授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	質問紙調査の基礎 (Basics of Questionnaire Survey)																				
◆ 目的・概要	質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)質問紙調査の長所と短所を把握する； (2)質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 調査票の検討</td> </tr> <tr> <td>2. 調査課題の設定</td> <td>10. エディティングとコーディング</td> </tr> <tr> <td>3. 既存調査と先行研究の探索</td> <td>11. データの入力と点検</td> </tr> <tr> <td>4. 調査対象者と調査方法</td> <td>12. 報告書の執筆</td> </tr> <tr> <td>5. 調査の企画</td> <td>13. 調査結果発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 質問文と回答欄</td> <td>14. 調査結果発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査実施について面談</td> <td>15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 調査票の構成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 調査票の検討	2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング	3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検	4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆	5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)	6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)	7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談	8. 調査票の構成	
1. イントロダクション	9. 調査票の検討																				
2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング																				
3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検																				
4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆																				
5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)																				
6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)																				
7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談																				
8. 調査票の構成																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (40%)、学期末に提出する質問紙 (30%)、調査結果に基づくレポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 轟亮・杉野勇 (編) (2013) 『入門・社会調査法 [第2版]』法律文化社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	統計分析の基礎 (Basics of Statistical Analysis)																				
◆ 目的・概要	意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)統計分析の基礎を理解する； (2)データ分析ができるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平均と分散</td> </tr> <tr> <td>2. SPSS入門</td> <td>10. 平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析の基礎</td> <td>11. 分散分析</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布表とグラフの利用</td> <td>12. 推測統計の基礎と区間推定</td> </tr> <tr> <td>5. クロス表分析の基礎</td> <td>13. 統計的検定</td> </tr> <tr> <td>6. 連関係数</td> <td>14. さまざまな検定手法</td> </tr> <tr> <td>7. クロス表の解釈</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進度確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 平均と分散	2. SPSS入門	10. 平均値の比較	3. 統計分析の基礎	11. 分散分析	4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定	5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定	6. 連関係数	14. さまざまな検定手法	7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談	8. 前回までの復習と進度確認課題	
1. イントロダクション	9. 平均と分散																				
2. SPSS入門	10. 平均値の比較																				
3. 統計分析の基礎	11. 分散分析																				
4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定																				
5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定																				
6. 連関係数	14. さまざまな検定手法																				
7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談																				
8. 前回までの復習と進度確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	調査的面接の基礎 (Basics of In-depth Interview)																				
◆ 目的・概要	面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)面接調査の長所と短所を把握する； (2)面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. インタビュー実施から書き起こしまで</td> </tr> <tr> <td>2. 研究のイメージをつかむ</td> <td>10. 分析</td> </tr> <tr> <td>3. 調査的面接の方法</td> <td>11. 報告書</td> </tr> <tr> <td>4. シナリオの作成</td> <td>12. 発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 面接実習</td> <td>13. 発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 面接実習結果について検討</td> <td>14. 調査的面接の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 対象者の選びかた</td> <td>15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論</td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画について討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで	2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析	3. 調査的面接の方法	11. 報告書	4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)	5. 面接実習	13. 発表会 (2)	6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理	7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論	8. 調査計画について討論	
1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで																				
2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析																				
3. 調査的面接の方法	11. 報告書																				
4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)																				
5. 面接実習	13. 発表会 (2)																				
6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理																				
7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論																				
8. 調査計画について討論																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (50%)、調査結果に基づく口頭発表とレポート (50%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 松浦均・西口利文 (2008) 『観察法・調査的面接法の進め方』 ナカニシヤ出版。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHM-LIN321J																				
◆ 授業題目	実践的統計分析法 (Statistical Analysis in Practice)																				
◆ 目的・概要	研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法をとりあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法をとりあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 推測統計の基礎</td> <td>9. 対応のある平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>2. 正規分布の利用</td> <td>10. 多変量解析 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的検定と検定力</td> <td>11. 多変量解析 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 順位相関係数</td> <td>12. 多変量解析 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 積率相関係数</td> <td>13. 多変量解析 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 相関係数行列</td> <td>14. 多変量解析 (5)</td> </tr> <tr> <td>7. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容について相談</td> </tr> <tr> <td>8. 符号検定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較	2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)	3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)	4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)	5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)	6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)	7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談	8. 符号検定	
1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較																				
2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)																				
3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)																				
4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)																				
5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)																				
6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)																				
7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談																				
8. 符号検定																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					



平成29年度 文学研究科学年暦

授業日程等	主な行事及び書類提出期日等	備 考		
<b>第1学期</b> <b>授業期間</b> 自4月7日(金) 至7月24日(月)	入学式	4月5日(水)午前		
	入学者オリエンテーション	4月5日(水)午後		
	WEB履修登録期間			
	研究題目提出期限 (MC1、DC1)	4月11日(火)		
	定期健康診断	5月中旬		
	教育実習 (前期) (2又は3週間)	5月中旬～7月上旬		
	介護等体験参加申込書提出期限	6月中旬		
	オープン研究室	6月中旬		
	創立記念日	6月22日(木)		
	修士論文・修士研究題目届提出期限	6月26日(月)		
	論文作成計画書提出期限 (DC1)	7月21日(金)		
	大学院説明会	7月25日(火)～26日(水)		
	大学院入学願書 (秋期) 受付期間	8月2日(水)～8日(火)		
	修士論文・修士研究提出期限	7月31日(月)		
介護等体験事前指導	9月上旬			
大学院入学試験 (秋期)	9月13日(水)～15日(金)			
学位記授与式 (修士・博士)	9月25日(月)			
<b>第1学期</b> <b>補講期間</b> 自7月27日(木) 至8月2日(水) ※7月25日～26日 は休業日		文学部第1講義室 日程は掲示等で連絡		
			日程は掲示等で連絡	
			協力校 (中・高) 及び 出身校 (中・高)	
			授業を行う	
			9月修了予定者	
			提出先：指導教員	
			一般選抜・社会人特別選抜	
			9月修了予定者	
			日程は掲示等で連絡	
	<b>夏季休業期間</b> 自8月3日(木) 至9月29日(金)			
<b>第2学期</b> <b>授業期間</b> 自10月2日(月) 至1月29日(月)	修士論文・修士研究題目届提出期限	10月6日(金)		
	教育実習参加申込書提出期限	10月上旬		
	WEB履修登録期間			
	教育実習 (後期) (3週間)	10月中旬～11月上旬		
	大学祭	11月3日(金)～5日(日)		
	教育実習事前指導	11月中旬		
	中間論文提出期限 (DC2)	11月24日(金)		
	博士論文題目等調査書提出期限	12月8日(金)		
	教員免許状出願期限	12月下旬		
	大学院入学願書 (春期) 受付期間	1月9日(火)～15日(月)		
	博士論文提出期限	1月4日(木)		
	修士論文・修士研究提出期限	1月5日(金)		
	大学院入学試験 (春期)	1月31日(水)～2月2日(金)		
	研究生・科目等履修生入学願書受付	2月9日(金)～16日(金)		
修了者決定の掲示	3月上旬			
学位記授与式 (修士・博士)	3月27日(火)			
<b>第2学期</b> <b>補講期間</b> 自2月5日(月) 至2月9日(金)		次年度希望者 日程は掲示等で連絡 協力校 (中)		
			次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡	
			提出先：指導教員	
			年度内修了予定者	
			日程は掲示等で連絡	
			年度内修了予定者	
			3月修了予定者	
	<b>論文口頭</b> <b>試問期間</b> 自2月5日(月) 至2月15日(木)			

(注1) 定期試験の期間は特に設けず、授業担当教員の判断により当該セメスター (学年) 内に随時実施する。

(注2) 6月22日 (木) は創立記念日であるが授業を行う。

## 日本語教育学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日 本 語 教 育 論 特 論 I	海外の日本語教育	2	㊦ 長 田 佳奈子	1 学期	火	4	415
日 本 語 教 育 論 特 論 II	学習者と社会	2	島 崎 薫	2 学期	金	3	415
日 本 語 教 育 論 特 論 III	日本語教育方法論	2	㊦ 横 溝 紳一郎	集 中 (1 学期)			416
日 本 語 教 育 論 講 読	第二言語習得研究	2	小 河 原 義 朗	1 学期	月	2	416
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 I	読解の授業と教材	2	才 田 い ず み	1 学期	火	2	417
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 II	学習者の音声と教育	2	小 河 原 義 朗	2 学期	火	4	417
日 本 語 教 育 論 実 習 I	日本語コース運営の基礎	2	才 田 い ず み	1 学期	月	3・4	418
日 本 語 教 育 論 実 習 II	日本語コースの評価と改善	2	才 田 い ず み	2 学期	月	3・4	418
比 較 現 代 日 本 論 講 読 I	現代日本論論文講読	2	田 中 重 人	1 学期	金	4	419
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 I	統計分析の基礎	2	田 中 重 人	1 学期	木	2	419
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 II	質問紙調査の基礎	2	田 中 重 人	1 学期	水	2	420
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 II	調査的面接の基礎	2	田 中 重 人	2 学期	水	2	420
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 III	実践的統計分析法	2	田 中 重 人	2 学期	木	2	421
課 題 研 究 ( 日 本 語 教 育 学 )		4	才田いずみ・田中 重人 小河原義朗・梅木 俊輔	通 年	水	5	

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 I Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 長 田 佳奈子	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN630J				
◆ 授業題目	海外の日本語教育 (Japanese-Language Education Abroad)				
◆ 目的・概要	海外における日本語教育が広がる中、母語話者教師、非母語話者教師を問わず、日本語教師が果たすべき役割も多様化している。教師として日本語を教えるだけでなく、現地の教師育成支援、ネットワーク形成、アドボカシー等に貢献できるよう、海外の日本語教育を、さまざまな視点からとらえる。				
◆ 到達目標	海外における日本語教育の現状、課題を捉え、その対策が考えられる。 海外で、現地の日本語教育関係者とともに、カリキュラムを考えたり、研修やイベントを実施したりするために必要な視点を得る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 海外で教える日本語教師に求められる要素</li> <li>3. 海外の日本語教育の現状 (アジア)</li> <li>4. 海外の日本語教育の現状 (アジア以外)</li> <li>5. 海外の初・中等教育における日本語科目</li> <li>6. 海外の高等教育における日本語教育</li> <li>7. 海外の日本語予備教育</li> <li>8. 海外で求められるビジネス日本語</li> <li>9. 海外における日本語教師養成、教師育成</li> <li>10. 海外における母語話者教師と非母語話者教師のチーム・ティーチング</li> <li>11. 海外で現地日本語母語話者をゲストに呼んだ日本語授業を実施する</li> <li>12. 海外で日本語学習者対象の日本語、日本文化イベントを企画、運営する</li> <li>13. 非母語話者教師対象のワークショップを企画、運営する</li> <li>14. 海外における日本語教師ネットワーク形成</li> <li>15. まとめ 海外における日本語教育の現状と課題</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	レポート 50%・授業課題30%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 20%				
◇ 教科書・参考書	参考書：椎名和男編 (2006)『海外で日本語を教える - ネイティブ日本語教師への期待-』凡人社				
◇ 授業時間外学習	参考書、配布資料を読む。 与えられた課題を行う。				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 II Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 島 崎 薫	2 学期	金	3
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN631J				
◆ 授業題目	学習者と社会 (Japanese language learners and society)				
◆ 目的・概要	日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る</li> <li>(2)日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる</li> <li>(3)学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる</li> <li>(4)グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる</li> </ol>				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、自己紹介</li> <li>2. 理論的背景を学ぶ (社会文化アプローチ、状況論、リソースなど)</li> <li>3. 教室の中に社会を持ち込む ①</li> <li>4. 教室の中に社会を持ち込む ②</li> <li>5. 教室と社会を繋げる ①</li> <li>6. 教室と社会を繋げる ②</li> <li>7. 社会を教室にする ①</li> <li>8. 社会を教室にする ②</li> <li>9. 社会を教室にする ③</li> <li>10. 日本語学習者の教室外での日本語使用を知る</li> <li>11. 東北大学のサマープログラムの紹介/プログラムデザイン</li> <li>12. グループでプログラムデザイン</li> <li>13. デザインしたプログラムをグループごとに中間発表</li> <li>14. 中間発表でのフィードバックを踏まえて最終発表に向けての準備</li> <li>15. 受講生のデザインしたプログラム最終発表、まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	参加態度40%、プログラムデザイン (グループプロジェクト) 30%、最終レポート30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で適宜配布予定				
◇ 授業時間外学習	授業時間外でグループ活動をする必要があります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 Ⅲ Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 横 溝 紳一郎	集 中 (1学期)		
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN632J				
◆ 授業題目	日本語教育方法論 (Japanese Language Pedagogy)				
◆ 目的・概要	日本語教育の現場で生じる様々な出来事に適切に対処するために必要不可欠な技術・知識について、包括的に講義を行う。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語教師の役割が理解できる。</li> <li>2. テストと評価の大切さが理解できる。</li> <li>3. 教材と学習環境の大切さが理解できる。</li> <li>4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さが理解できる。</li> <li>5. 学習者との信頼関係づくりの大切さが理解できる。</li> <li>6. 教師としての自分の言動を振り返るポイントが理解できる。</li> <li>7. 自律的学習者の育成方法が理解できる。</li> <li>8. 学習支援者としての心構えが理解できる。</li> </ol>				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、教師の成長</li> <li>2. 教師の役割</li> <li>3. テストと評価 (1)</li> <li>4. テストと評価 (2)</li> <li>5. 教材と学習環境 (1)</li> <li>6. 教材と学習環境 (2)</li> <li>7. 多様な学習者の理解</li> <li>8. 多様な学習者への対応</li> <li>9. 学習者との信頼関係づくり (1)</li> <li>10. 学習者との信頼関係づくり (2)</li> <li>11. 教師の言動の振り返り (1)</li> <li>12. 教師の言動の振り返り (2)</li> <li>13. 教師の言動の振り返り (3)</li> <li>14. 自律的学習者の育成</li> <li>15. 学習支援者としての心構え、まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	出席を含む授業態度 (50%) と、期末レポート (50%) により評価する。 欠席3回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2回で欠席1回とみなす。				
◇ 教科書・参考書	教科書：横溝紳一郎 (2011) 『クラスルーム運営』 くろしお出版 参考書：川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』 ひつじ書房				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で学んだ内容について、教科書に書かれている内容をしっかり復習し、理解を深め続けること。				
その他：	1. 出席と積極的な参加を重視します。(授業中の私語・スマホ使用は厳禁！) 2. これまでの学習者/教師としての体験を振り返りながら、授業に参加してください。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 講 読 Applied Japanese Linguistics (Reading)	2	准教授 小 河 原 義 朗	1 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN634J				
◆ 授業題目	第二言語習得研究 (Second Language Acquisition Research)				
◆ 目的・概要	日本語を教えるために必要な第二言語習得の基本的な考え方を理解し、授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、第二言語習得に関して提示された課題について次のような活動を通して進める。 (1)資料をもとに課題に対する考えをまとめる。(2)担当資料を理解し、課題を解く。(3)担当資料を紹介し合い、協働して課題に対する解作りに取り組む。(4)課題に対する解を発表し合い、全体で議論する。 (5)課題に対する解について改めてまとめる。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し、説明できる。</li> <li>(2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。</li> </ol>				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 課題1</li> <li>3. 課題2-1</li> <li>4. 課題2-2</li> <li>5. 課題3-1</li> <li>6. 課題3-2</li> <li>7. 課題4-1</li> <li>8. 課題4-2</li> <li>9. 課題5-1</li> <li>10. 課題5-2</li> <li>11. 課題6-1</li> <li>12. 課題6-2</li> <li>13. 課題7-1</li> <li>14. 課題7-2</li> <li>15. まとめと期末テスト</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	期末テスト 30%・課題 40%・授業参加度 30%				
◇ 教科書・参考書	授業内で指定、または配布する。				
◇ 授業時間外学習	提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。				
その他：	3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 I Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教 授 才 田 い ず み	1 学 期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN635J				
◆ 授業題目	読解の授業と教材 (Activities and Materials for Reading Comprehension)				
◆ 目的・概要	読解という活動は、取り組んでいる学習者がどのように理解に達しているかが見えない活動である。通常、内容確認質問を行うことで理解の程度を知ろうとするわけだが、内容確認質問への答えからは何がわかるだろうか。教師は、授業の中で学習者に行わせる活動を通して何が把握でき、何が把握できないのかを意識して活動を展開する必要がある。 この授業では、読みをめぐる教材とタスクデザインによって、学習者がどのようなことを考えたのか、あるいは考えているのかを、可視化するにはどうしたらよいか、受講者全員で考える。 また、自分のアイデアを盛り込んだ読解教材あるいはタスクデザインの提案を行い、それぞれの提案について議論することによって、よりよい教材や授業デザインを志向する。				
◆ 到達目標	学習者が読むことに取り組みやすい教材デザインとはどのようなものかを考えることができるようになる。 学習者の読みのプロセスが把握しやすくなる教材デザインや授業活動の展開方法について、さまざまなアイデアを出すことができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 「読める」とは何ができることで、「読めない」とは何ができないことか。</li> <li>2. 市販教材の検討 (1)</li> <li>3. 改善策の検討と提案 (1)</li> <li>4. 改善策の検討と提案 (2)</li> <li>5. 市販教材の検討 (2)</li> <li>6. タスクの検討：その意味と期待される効果</li> <li>7. リソースの選定について</li> <li>8. 予習の与え方について</li> <li>9. フィードバックが組み込まれるタスクとは</li> <li>10. 発表と質疑 (1)</li> <li>11. 発表と質疑 (2)</li> <li>12. 発表と質疑 (3)</li> <li>13. 改善の提案 (1)</li> <li>14. 改善の提案 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	期末レポート 30%、教材・タスクの提案 20%、発表とその態度 20%、 質疑・コメント等による授業への貢献 20%、出席 10%				
◇ 教科書・参考書	教科書は用いない。参考文は適宜紹介する。 参考書：奥田純子監修、竹田悦子他編著 (2011)『読む力 中級』くろしお出版 縫部義憲編著 (2002)『多文化共生時代の日本語教育－日本語の効果的な教え方・学び方』歴々社ほか				
◇ 授業時間外学習	授業課題を行い、わかりやすい発表の準備をする。紹介された文献を読む。 自分の読みの活動を観察し内省する。				
その他：授業では、積極的に発言し、他の受講者の思考に刺激を与える存在になること。 3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 II Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) II	2	准 教 授 小 河 原 義 朗	2 学 期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN636J				
◆ 授業題目	学習者の音声と教育 (Learners' Pronunciation and its Education)				
◆ 目的・概要	日本語学習者はよりよい音声の実現に対して、高いニーズを持っている。この演習では、さまざまな母語を持つ学習者のいる教室を念頭に、有効な音声教育の方法について考えていく。 授業においては、具体的な指導法を考えて実践してみる活動や、市販の教材の利用法の検討、オリジナル教材の作成など、グループや個人単位での活動とその発表が盛り込まれる。 各受講者は積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。 日本語学習者に対する音声教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。				
◆ 到達目標	日本語学習者に対する音声教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 音声とコミュニケーション</li> <li>3. 音声言語と文字言語</li> <li>4. 学習者の音声</li> <li>5. 子音・母音 (1)</li> <li>6. 子音・母音 (2)</li> <li>7. 特殊拍と音素</li> <li>8. 韻律 (1)</li> <li>9. 韻律 (2)</li> <li>10. 教科書分析と模擬授業 (1)</li> <li>11. 教科書分析と模擬授業 (2)</li> <li>12. 模擬授業の振り返り</li> <li>13. 音声教育と研究 (1)</li> <li>14. 音声教育と研究 (2)</li> <li>15. 音声教育の方法と教師の役割・まとめ</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	期末レポート 30%・授業課題 40%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度 30%				
◇ 教科書・参考書	参考書：松崎寛・河野俊之 (1998)『よくわかる音声』アルク。 小河原義朗・河野俊之 (2009)『日本語教師のための音声教育を考える本』アルク。ほか				
◇ 授業時間外学習	参考書を読む。与えられた課題を行う。				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に際しては、他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが得られるよう、わかりやすい提示を心がけること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 論 実 習 I Methodologies in Japanese Language Teaching (Practice) I	2	教 授 才 田 い ず み	1 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN637J																				
◆ 授業題目	日本語コース運営の基礎 (Basics for Designing a Japanese Language Course)																				
◆ 目的・概要	日本語のコースデザインやコースの実施運営に必要な内容を学び、身につける。 1. コースデザインや授業デザイン、教師教育関連の論文を読みながら、夏季休暇中に実施予定の日本語コースに対するレディネスを高める。 2. 夏季集中コースのためのコースデザインを行う。 3. コース運営に必要な種々の準備作業を行う。																				
◆ 到達目標	(1)コースデザインやコース運営に対するレディネスを高める。 (2)実際に日本語夏季集中コースのコースデザインを行う。 (3)日本語夏季集中コースのための準備作業を行う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討</td> <td>9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施</td> </tr> <tr> <td>2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1</td> <td>10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂</td> </tr> <tr> <td>3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2</td> <td>11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1</td> </tr> <tr> <td>4. 事前調査について 学習者募集の検討</td> <td>12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2</td> </tr> <tr> <td>5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成</td> <td>13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3</td> </tr> <tr> <td>6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂</td> <td>14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定</td> </tr> <tr> <td>7. 学習者の日本語力の測定と評価</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. プレイスメントテスト案の作成・検討</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討	9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施	2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1	10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂	3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2	11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1	4. 事前調査について 学習者募集の検討	12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2	5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成	13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3	6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂	14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定	7. 学習者の日本語力の測定と評価	15. まとめ	8. プレイスメントテスト案の作成・検討	
1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討	9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施																				
2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1	10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂																				
3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2	11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1																				
4. 事前調査について 学習者募集の検討	12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2																				
5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成	13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3																				
6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂	14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定																				
7. 学習者の日本語力の測定と評価	15. まとめ																				
8. プレイスメントテスト案の作成・検討																					
◇ 成績評価の方法	レポート50%、平常点(クラス参加度・授業課題・ジャーナル)50%																				
◇ 教科書・参考書	適宜教員が指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で、次回までの課題が課せられる。本授業の課題として運営する夏季日本語コースに関する作業のほとんどは、授業時間外に行う必要があると想定しておくこと。																				
その他：履修要件：夏季休暇中の教壇実習に参加できること(日本語夏季集中コースは8月の数週間を使って実施予定)。2学期の日本語教育論実習Ⅱが履修できること。教壇実習の報告書の作成に参加できること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 論 実 習 II Methodologies in Japanese Language Teaching (Practice) II	2	教 授 才 田 い ず み	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN638J																				
◆ 授業題目	日本語コースの評価と改善 (Japanese Language Course Reflection for further Development)																				
◆ 目的・概要	夏季休暇中に運営した集中日本語コースを材料に、授業活動や授業運営、コース運営について分析・評価を行う。その活動を通して、日本語コースのデザインや運営についての気づきと、より広い知識を得る。 具体的には以下の項目を扱う。 1) 授業データを利用して、種々の分析法を学びながら、授業を記述・分析することの意義について検討する。 2) 授業ビデオを詳細に検討することによって、授業・およびコースデザインの評価を行い、改善策を考える。 3) コース全体を振り返り、その問題点を検討し、改善策を考える。																				
◆ 到達目標	(1)授業の記述・分析と評価ができる。 (2)コース・授業の改善・発展について有効なアイデアを出すことができる。 (3)日本語コースのデザインや運営についての気づきと、より広い知識を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 授業分析の枠組み 2</td> </tr> <tr> <td>2. 夏季集中コースについての振り返り</td> <td>10. 分析枠組みを用いた結果の検討 1</td> </tr> <tr> <td>3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 1</td> <td>11. 分析枠組みを用いた結果の検討 2</td> </tr> <tr> <td>4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 2</td> <td>12. 分析枠組みを用いた結果の検討 3</td> </tr> <tr> <td>5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 3</td> <td>13. 分析枠組みを用いた結果の検討 4</td> </tr> <tr> <td>6. 改善策の検討</td> <td>14. 教師としての自分の傾向について考える</td> </tr> <tr> <td>7. 書き起こしデータから見えることを考える</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 授業分析の枠組み 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 授業分析の枠組み 2	2. 夏季集中コースについての振り返り	10. 分析枠組みを用いた結果の検討 1	3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 1	11. 分析枠組みを用いた結果の検討 2	4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 2	12. 分析枠組みを用いた結果の検討 3	5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 3	13. 分析枠組みを用いた結果の検討 4	6. 改善策の検討	14. 教師としての自分の傾向について考える	7. 書き起こしデータから見えることを考える	15. まとめ	8. 授業分析の枠組み 1	
1. イントロダクション	9. 授業分析の枠組み 2																				
2. 夏季集中コースについての振り返り	10. 分析枠組みを用いた結果の検討 1																				
3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 1	11. 分析枠組みを用いた結果の検討 2																				
4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 2	12. 分析枠組みを用いた結果の検討 3																				
5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 3	13. 分析枠組みを用いた結果の検討 4																				
6. 改善策の検討	14. 教師としての自分の傾向について考える																				
7. 書き起こしデータから見えることを考える	15. まとめ																				
8. 授業分析の枠組み 1																					
◇ 成績評価の方法	レポート50%、平常点(クラス参加度、授業課題、ジャーナル)40%、実習報告書への貢献10%																				
◇ 教科書・参考書	適宜教員が指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業データに関する分析作業は、ほとんど授業時間外に実施する課題となる。 毎回の授業を振り返りジャーナルを書くことを課すが、これも時間外の学習課題である。																				
その他：履修要件：日本語教育論実習Ⅰを履修済みであること。 3回以上欠席した場合には、特別な理由のない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 講 読 I Comparative study on Contemporary Japan (Reading) I	2	准教授 田 中 重 人	1 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN641J																				
◆ 授業題目	現代日本論論文講読 (Reading seminar in contemporary Japanese studies)																				
◆ 目的・概要	研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1論文を、(a)鍵概念の抽出 (scanning)、(b)構造の抽出 (skimming)、(c)図表の解説、(d)ロジックの抽出、の4人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)論文の探しかたと読みかたを理解する； (2)プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. プレゼンテーション (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 論文をさがす (1): 日本語文献</td> <td>10. プレゼンテーション (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 論文をさがす (2): 英語文献</td> <td>11. 録画視聴と振り返り (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 論文の読みかた (1): 鍵概念と構造</td> <td>12. プレゼンテーション (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 論文の読みかた (2): 図表とロジック</td> <td>13. プレゼンテーション (4)</td> </tr> <tr> <td>6. プレゼンテーション資料の作成</td> <td>14. 録画視聴と振り返り (2)</td> </tr> <tr> <td>7. プレゼンテーションの準備</td> <td>15. 全体のまとめと講評</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. プレゼンテーション (1)	2. 論文をさがす (1): 日本語文献	10. プレゼンテーション (2)	3. 論文をさがす (2): 英語文献	11. 録画視聴と振り返り (1)	4. 論文の読みかた (1): 鍵概念と構造	12. プレゼンテーション (3)	5. 論文の読みかた (2): 図表とロジック	13. プレゼンテーション (4)	6. プレゼンテーション資料の作成	14. 録画視聴と振り返り (2)	7. プレゼンテーションの準備	15. 全体のまとめと講評	8. 発表と質疑	
1. イントロダクション	9. プレゼンテーション (1)																				
2. 論文をさがす (1): 日本語文献	10. プレゼンテーション (2)																				
3. 論文をさがす (2): 英語文献	11. 録画視聴と振り返り (1)																				
4. 論文の読みかた (1): 鍵概念と構造	12. プレゼンテーション (3)																				
5. 論文の読みかた (2): 図表とロジック	13. プレゼンテーション (4)																				
6. プレゼンテーション資料の作成	14. 録画視聴と振り返り (2)																				
7. プレゼンテーションの準備	15. 全体のまとめと講評																				
8. 発表と質疑																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (30%)、担当部分のプレゼンテーション (40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答 (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。 【参考書】 諏訪邦夫 (1995) 『発表の技法』講談社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと																				
その他：授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 I Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) I	2	准教授 田 中 重 人	1 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN643J																				
◆ 授業題目	統計分析の基礎 (Basics of Statistical Analysis)																				
◆ 目的・概要	意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)統計分析の基礎を理解する； (2)データ分析ができるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平均と分散</td> </tr> <tr> <td>2. SPSS入門</td> <td>10. 平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析の基礎</td> <td>11. 分散分析</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布表とグラフの利用</td> <td>12. 推測統計の基礎と区間推定</td> </tr> <tr> <td>5. クロス表分析の基礎</td> <td>13. 統計的検定</td> </tr> <tr> <td>6. 連関係数</td> <td>14. さまざまな検定手法</td> </tr> <tr> <td>7. クロス表の解釈</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 平均と分散	2. SPSS入門	10. 平均値の比較	3. 統計分析の基礎	11. 分散分析	4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定	5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定	6. 連関係数	14. さまざまな検定手法	7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談	8. 前回までの復習と進捗確認課題	
1. イントロダクション	9. 平均と分散																				
2. SPSS入門	10. 平均値の比較																				
3. 統計分析の基礎	11. 分散分析																				
4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定																				
5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定																				
6. 連関係数	14. さまざまな検定手法																				
7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談																				
8. 前回までの復習と進捗確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅱ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 田 中 重 人	1 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN644J																				
◆ 授業題目	質問紙調査の基礎 (Basics of Questionnaire Survey)																				
◆ 目的・概要	質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)質問紙調査の長所と短所を把握する； (2)質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 調査票の検討</td> </tr> <tr> <td>2. 調査課題の設定</td> <td>10. エディティングとコーディング</td> </tr> <tr> <td>3. 既存調査と先行研究の探索</td> <td>11. データの入力と点検</td> </tr> <tr> <td>4. 調査対象者と調査方法</td> <td>12. 報告書の執筆</td> </tr> <tr> <td>5. 調査の企画</td> <td>13. 調査結果発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 質問文と回答欄</td> <td>14. 調査結果発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査実施について面談</td> <td>15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 調査票の構成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 調査票の検討	2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング	3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検	4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆	5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)	6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)	7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談	8. 調査票の構成	
1. イントロダクション	9. 調査票の検討																				
2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング																				
3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検																				
4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆																				
5. 調査の企画	13. 調査結果発表会 (1)																				
6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会 (2)																				
7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談																				
8. 調査票の構成																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (40%)、学期末に提出する質問紙 (30%)、調査結果に基づくレポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 轟亮・杉野勇 (編) (2013) 『入門・社会調査法 [第2版]』法律文化社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成																				
その他：1 学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅱ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 田 中 重 人	2 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN644J																				
◆ 授業題目	調査的面接の基礎 (Basics of In-depth Interview)																				
◆ 目的・概要	面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)面接調査の長所と短所を把握する； (2)面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. インタビュー実施から書き起こしまで</td> </tr> <tr> <td>2. 研究のイメージをつかむ</td> <td>10. 分析</td> </tr> <tr> <td>3. 調査的面接の方法</td> <td>11. 報告書</td> </tr> <tr> <td>4. シナリオの作成</td> <td>12. 発表会 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 面接実習</td> <td>13. 発表会 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 面接実習結果について検討</td> <td>14. 調査的面接の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 対象者の選びかた</td> <td>15. 全体のまとめ；</td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画について討論</td> <td>レポート執筆に向けて討論</td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで	2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析	3. 調査的面接の方法	11. 報告書	4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)	5. 面接実習	13. 発表会 (2)	6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理	7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；	8. 調査計画について討論	レポート執筆に向けて討論
1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで																				
2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析																				
3. 調査的面接の方法	11. 報告書																				
4. シナリオの作成	12. 発表会 (1)																				
5. 面接実習	13. 発表会 (2)																				
6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理																				
7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；																				
8. 調査計画について討論	レポート執筆に向けて討論																				
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (50%)、調査結果に基づく口頭発表とレポート (50%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 松浦均・西口利文 (2008) 『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成																				
その他：1 学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅱ「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。 授業資料は <a href="http://tsigeto.info/c.html">http://tsigeto.info/c.html</a> に掲載予定。																					



授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅲ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 田 中 重 人	2 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LLI-LIN645J																				
◆ 授業題目	実践的統計分析法 (Statistical Analysis in Practice)																				
◆ 目的・概要	研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法を取りあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法を取りあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 推測統計の基礎</td> <td>9. 対応のある平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>2. 正規分布の利用</td> <td>10. 多変量解析 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的検定と検定力</td> <td>11. 多変量解析 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 順位相関係数</td> <td>12. 多変量解析 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 積率相関係数</td> <td>13. 多変量解析 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 相関係数行列</td> <td>14. 多変量解析 (5)</td> </tr> <tr> <td>7. 前回までの復習と進度確認課題</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容について相談</td> </tr> <tr> <td>8. 符号検定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較	2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)	3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)	4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)	5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)	6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)	7. 前回までの復習と進度確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談	8. 符号検定	
1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較																				
2. 正規分布の利用	10. 多変量解析 (1)																				
3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析 (2)																				
4. 順位相関係数	12. 多変量解析 (3)																				
5. 積率相関係数	13. 多変量解析 (4)																				
6. 相関係数行列	14. 多変量解析 (5)																				
7. 前回までの復習と進度確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談																				
8. 符号検定																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：1学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。																					